

博物館だより

NO.27

SUITA CITY MUSEUM

平成18年（2006年）度 夏休み特別展示

吹田の景観を掘りおこす

平成18年（2006年）8月5日（土）～9月10日（日）



吹田・300万年の景観

吹田市には市街地がひろがり、高層ビルがたちならんでいます。しかし、江戸時代は水田や里山のある田園地帯だったことが絵や古文書からわかりますし、6000年前の縄文時代には海の下となり、40万年以上前は針葉樹の森にゾウやワニが徘徊していたことが、土の中から掘り出された人工遺物や化石、花粉、火山灰などを手がかりに復元できるのです。

私たちの祖先は、自然の変化に対して工夫を重ねながら生きてきました。しかし今では、自然を変えるまでになりました。ところがその動きに歯止めがかからず、地球環境を危機に追いつめています。これからは、自然を守りながら、快適で健康な生活を送るために、私たちはどんな景観を描けばよいのか、歴史を振り返りながら考えてみてください。（小山修三）

原千里丘陵 —ゾウやワニのいた森



マチカネワニとトウヨウゾウ
(豊中市教育委員会提供)

千里丘陵は今から300万年前から50万年前頃にかけて堆積した砂礫や粘土が、その後の地殻変動によって隆起して出現したものです。その間には気候の変動により海水面が何度も上下し、そのため海底で堆積した地層が300m近くの厚さとなって重なっています。また、地層の間には何層もの火山灰層が挟まれており、大規模な火山活動があったことも物語っています。

市内では今から250万年前～120万年前頃にかけて生息していたと考えられるアケボノゾウの歯や牙の化石が出口町や佐竹台で見つかります。また、豊中市待兼山では40万年前頃と考えられる地層から体長8mに及ぶマチカネワニの化石が見つかっており、ヒトが現れるはるか前の千里丘陵にはゾウやワニのいる風景がありました。(増田真木)



ヒトの登場 —旧石器時代



ナウマンゾウの解体
(兵庫県教育委員会
埋蔵文化財調査事務所提供)

吹田市で最も早い人の生活痕は、約1万8千年前の旧石器時代です。当時は氷河期という寒冷な気候で、海水面は今よりも100m以上低く、現在の瀬戸内海や大阪湾の大部分は陸地となっていました。

代表的な旧石器時代の遺跡には、吉志部遺跡があります。この遺跡は、千里丘陵上、ちょう

ど大阪平野を南に望む付近に位置しています。おそらく当時は、大阪湾も陸地であり、現在よりも広大な山野が目前に広がっていたことでしょう。そして、そこには今日の淀川につながるであろう河川が流れ、狩猟の対象ともなる動物たちが生息していました。人々は狩猟や採集をして暮らしていました。(賀納章雄)

縄文海進と火山活動

氷河期も終わりに近づいたおよそ1万5千年前、土器が作られはじめ、ひとびとは動物を追って移動する生活に別れを告げます。これ以後、水田が広がるまでの間を縄文時代といいます。1万2千年前には、気候は急速に温暖化し、6千年前には気温が今よりも2～3度あたたかく、海面も高くなりました。大阪平野は大部分が海の下になりましたが、吹田市付近は海とつながった湖に面していたようです。その後、気候はゆっくり寒冷化したので、海は引いて平野が形づくられ、地形は現在とよく似たものになりました。

吹田市の縄文遺跡は数が少なく、現在のところ、高浜遺跡など5ヶ所しか知られていません。ひとびとは、狩猟採集による、質素でのんびりした生活を送っていたようにみえますが、ほかの地方と交易するなど、活発に活動していたこともわかってきました。

(内山純蔵)



(イラスト 安芸早穂子)

稲作の始まりと展開

弥生時代^{やよいじだい}はこれまでの採集・狩猟が主であった生活から大きく変わり、米作りが中心の社会となりました。米作りを通してムラづくりが進められ、大きな集落が成立していきました。吹田市内でもこれまで弥生時代の遺跡が多く見つかり、集落の周辺には水田の景観が形作られました。

垂水^{たるみ}地域では丘陵部に集落跡が確認されていますが、その眼下の平地部でも弥生土器が出土



(イラスト
さかいひろこ)

しています。三島の平野への入口に当たるこの地域は、各地でクニづくりが進んだ動乱の時期（中期～後期）の中で、重要な地点であったと考えられます。

古墳時代には使用する道具や土木技術の発達により、さらに水田が広がったと考えられ、そうした当時の土木技術の一端を垂水南遺跡の水田遺構で知ることができます。（西本安秀）

新たな産業 一窯業の隆盛



吉志部瓦窯跡（平安時代）

一度雨に見舞われると、千里丘陵から流れ出る小川は、^{とうど}陶土で白く濁り、秋の気候のいいときには、窯から吐き出される幾筋もの黒い煙が尾根を越え、谷を這って流れていきました。5～7世紀の一大須恵器生産地であった吹田では、このような風景が毎年みられたのです。

全長8mもある須恵器の窯は、1回で3トン程度の薪を消費したことが実験結果からわかります。そのため、窯の周囲の樹木は伐採され、窯は20～25年ごとに場所を変え、徐々に丘陵の

北へ、そして奥へと移動せざるをえなかったのです。

古墳時代の樹林の乱伐がなくなり、植生が回復した奈良時代になると、後期難波宮の宮殿用瓦が七尾で焼かれ、その60年余りのち、西方では平安京の瓦を焼いた吉志部瓦窯が、紫金山丘陵で煙を上げた。大阪と京都という二つの宮殿造営のために瓦窯がほぼ同じ地で築かれたことは、古代窯業史上、吹田は特筆すべき地であったことを物語っています。（藤原 学）

神崎川を生かす



八十嶋祭

延暦3年（784）に都が長岡京に遷され、その翌年には現在の摂津市別府あたりで淀川と神崎川を運河で繋ぐ工事が行われました。神崎川は都へ西国から人や荷物を運ぶ水路となり、吹田でも多くの舟が往来する光景が見られたことでしょう。

神崎川のかつての河川敷にある五反島遺跡では今から約1200年前に築かれた堤防の跡が長さ54mにわたって見つかりました。川に注ぐ小

な川との合流点に築かれ、舟の航行の安全を確保したり、水害を防ぐための役割を果たしていました。

また、五反島遺跡では平安時代前期の銅鏡や鉄鏃などの祭祀具が数多く出土し、この河川敷が、天皇の即位儀礼である八十嶋祭の祭場であったと考えられています。北方約2kmには八十嶋祭に奉仕した垂水神社があります。

（高橋真希）



東寺領垂水庄

風になびく門田の稲 ―中世吹田の風景

平安時代末期から鎌倉時代にかけて、神崎川を望む吹田の風景が貴族たちに愛され、京の貴族の吹田への遊行が行われました。とくに西園寺公経は、吹田西庄を領地とし、吹田殿と呼ばれる別荘を設けてたびたび訪れました。

『増鏡』には、そよ風になびく門田の稲、遠く聞える鹿の声、峯の秋風、野べの松虫、河おもての鶉飼のかがり火など、吹田殿をとりまく秋の風情のよさが書きとめられています。

吹田には、他にも垂水庄という大きな荘園がありました。今に残る絵図には、1里36町からなる条里の区画の様子や、円隆寺や宮、神崎川に浮ぶ二つの中洲や目印となる大木などの様子が描かれています。左の絵は、昔の絵図や古文書、発掘調査の結果をもとに描いたものです。下方は神崎川で、左方には神崎川へ注ぎ込む高川が描かれています。垂水庄は京都の東寺の所領で、収穫された年貢は、神崎川を船で運ばれて行きました。

(池田直子)

(イラスト 米子千智)



河川交通の発達 ―江戸時代の吹田

吹田の渡し口



三十石船

江戸時代の吹田の景観は、大きく2つに分けることができます。低い山々が連なる丘陵と呼ばれる地域。南部の神崎川に近い、土地が低い地域です。当時、作られた絵図(地図)をみると、田畑が多いのは、南部の神崎川沿いですが、丘陵部も谷間にけっこう田んぼが作られていたことがわかります。ため池が目立つのは山方の

特徴で、水不足にそなえてのものでしょう。

住居は集落としてある程度集まって建ち並んでいましたが、道沿いの限られた地域にありました。神崎川には川の港があり、渡し舟が運行され、北摂方面へ向かう道沿いは少し大きな集落となっていました。

(田口泰久)

江戸時代の住宅建築

浜屋敷



南高浜町にある浜屋敷^{はまやしき}は、江戸時代に旗本^つ植^げ氏の庄屋役を勤めていた気比家^{きびけ}の旧屋敷地です。気比家は江戸時代後期^{かしょかぶ}に過書株を取得しており、淀川・神崎川の河川輸送の営業に携わっていました。

界隈^{かいわい}は吹田の渡し口から続く亀岡街道の古い面影を今に伝えています。

現在の建物はかつての庄屋屋敷の外観をとどめながら、主屋の座敷^{しゅおくざしき}、土間^{どま}、台所^{だいどころ}を復元改修、座敷まわりは前栽^{せんざい}として整備し、蔵^{くら}は地域の民話や歴史資料を展示するギャラリーとなっています。市民の文化活動や交流の場として様々な行事が行われ、吹田歴史文化まちづくりセンターとして活用されています。（高橋真希）

旧西尾家住宅



内本町2丁目にある旧西尾家住宅は、明治時代に棟上げされた主屋や、武田五一設計^{たけだごいち}の離れ、茶道^{やぶのうち}藪内家「燕庵^{えんなん}」の写しである茶室^{せきすい}「積翠庵^{あん}」などの建物からなっています。近代和風建築として高く評価されており、最近まで居住されていました。

現在、旧西尾家住宅は吹田文化創造交流館として一般公開されており、その優れた建築物とそこで育まれた文化を広く知ってもらうとともに、講座やイベントを通じて吹田の文化を発信しています。（賀納章雄）

中西家住宅



現在、吹田市は市街地化が進み、その景観は年々変化しています。かつては茅葺き屋根の建物が多くあり、集落の周りには田園が広がり、また市北部の千里ニュータウンあたりは開発前まで竹藪や雑木林でした。

吹田市には、現在、国の登録文化財になっている江戸時代の住宅建築が2件あります。1件

は岸部中4丁目にある中西家住宅で、こちらは吹田市の有形文化財にも指定されています。また、もう1件は豊津町にある榎原家住宅です。この2件は、江戸時代の民家住宅のたたずまいを保ちながら、周囲の町並みにもとけ込んで往時の雰囲気を感じさせてくれます。(賀納章雄)

※中西家住宅・榎原家住宅は一般公開していません。

里山のめぐみ



(写真 高島耕一郎)

里山は私たちの身近にある林で、広葉樹の雑木林が多く、アカマツの林もあります。

私たちは、春にはワラビなどの山菜、秋には木の実や松茸などのキノコをとりました。冬には木を伐ってシバやマキにし、松葉を集め、煮炊きや風呂の燃料としました。里山は食べ物や燃料といっためぐみをもたらしてくれる林なの

です。

里山はもともとあった自然ではなく、人の利用によってできあがったくらしと結びついた自然で、そのめぐみとともにいろいろな動植物のすみかとしても貴重です。そこには人の自然との関わりかたが見えてきます。(藤井裕之)

これからの展示

平成18年度 実験展示 「さわる 五感の挑戦 PART I」

9月16日(土)～10月15日(日)

人間には、「みる」、「きく」、「さわる」、「かぐ」、「あじわう」という五感があります。ところが、博物館の見学では、目で「みる」ことばかりで、他の器官はほとんど使いません。今回は、「さわる」をとりあげ、資料をさわって触覚で鑑賞しようという実験をします。展示する資料は、和楽器・郷土玩具・仏像レプリカです。小さなお子様からご年配の方々、そして視覚等障害をお持ちの方も、手で感じる豊かな世界を楽しんでいただけるよう工夫したいと思います。

「吹田の景観を掘りおこす」展 関連イベント

*聴講無料、申し込み不要、先着120名

●講演会

8月13日(日) 午後2時～3時30分

「古代文明を壊した塩」

総合地球環境学研究所教授 佐藤洋一郎氏

8月27日(日) 午後2時～3時30分

「縄文海進と日本沈没」

吹田市立博物館館長 小山修三

ゲスト 作家 小松左京氏

9月3日(日) 午後2時～3時30分

「吹田にゾウがいたころ」

吹田地学会副会長 安部亮介氏

●シンポジウム

9月10日(日) 午後1時～5時

「景観史の視点からみた日本」

「何度も起きた『日本沈没』」

総合地球環境学研究所助教授 内山純蔵氏

「商品化する景観：近世以降の近江の事例から」

総合地球環境学研究所 研究支援推進員

カティ・リンドストロム氏

「近世・近代日本都市部の妖怪と幽霊」

県立高知女子大学文化学部助教授 高岡弘幸氏

「生者の村と死者の村」

國學院大学文学部兼任講師 中村 大氏

「吹田の景観を掘り下げる」

吹田市立博物館館長 小山修三

この冊子は、4,000部作成し1部あたりの単価は45円です。

平成18年度 秋季特別陳列 「昔の文字」

10月21日(土)～12月3日(日)

世界の文字いろいろ

𠩺𠩺𠩺𠩺

(甲骨文字・中国)

𠩺𠩺𠩺𠩺

(象形文字・エジプト)

𠩺𠩺𠩺𠩺

(楔形文字・メソポタミア)

𠩺𠩺𠩺𠩺

(マヤ文字・メキシコ)

文字は古代文明のなかで生まれました。日本は中国の漢字を取り入れ、仮名をつくりました。そのため、歴史、文学をはじめ多くの記録が残されています。しかし、古文書は変体仮名や草書で書かれているので読むのが難しい。昔の文字を理解し、吹田市にもたくさんある古文書を活用できるよう、この展示を企画しました。

クイズ・この文字読めるかな？

ひるごはん、
なに食べる？



抑も

交通案内

●JR岸辺駅下車徒歩25分

●JR吹田駅・阪急吹田駅から

桃山台駅前ゆき、山田樫切山ゆきバス「佐井寺北」

下車徒歩10分

千里中央ゆき、阪急山田ゆきバス「岸部」下車徒歩10分

●JR吹田北口から

五月が丘南ゆきバス「五月が丘西」下車徒歩7分

●阪急南千里駅から

JR吹田ゆきバス②、③系統「佐井寺北」下車徒歩10分

●車でのご来館は五月が丘・佐井寺方面からお願いします。

●開館時間

午前9時30分～午後5時

●休館日

月曜日、祝日の翌日

12月29日～1月3日

<http://www.suita.ed.jp/hak/>

吹田市立博物館だより 第27号

平成18年(2006)8月5日発行

吹田市立博物館

〒564-0001

吹田市岸部北4丁目10番1号

TEL.06(6338)5500

FAX.06(6338)9886

R100

古紙配合率100%再生紙を利用しています。
限りある資源を大切にしましょう。